

能美市議会議員
たなか さくじろう
田中 策次郎

絆 きずな ～能美市政報告～



市議会議員選挙10月22日に投開票！(1p)

12月議会 一般質問 (2p～3p)

- 第2次能美市総合計画実現に向け財源確保を問う
- 寺井あんしん相談センターの事業内容を問う
- 今後の地域包括的支援体制構築事業展開の計画を問う
- 市政への市民参加の推進に市民モニター制度の導入を
- 新公共交通体系構築のプロジェクトチーム編成を図れ

酒井悌次郎氏 名誉市民に！(4p)

ご支援ありがとうございました！

10月22日能美市議会議員選挙が行われ2,441票で当選！

多くの方々から頂きましたご支援を受け止め 今後もしっかりと議員活動に励みます。



祝「11/3 能美市名誉市民顕彰式」
酒井悌次郎氏 名誉市民に！
 平成6年に寺井町長の後、合併後本年2月まで能美市長に就任され長年の功績を称え贈られました



●第2次能美市総合計画の実現に向け、財源の安定確保の構想を問う

市公共施設の修繕更新費用は今後40年間で年平均27億円、加えて年間維持管理費が7億5千万円、財政運営にも大きな影響を与える。加えて道路の維持管理、水道、下水道の維持管理にも今後多くの歳出が必要。

本市の強みである子育て支援や高齢者福祉など、これからはしっかりと維持・継続が必要。

第2次能美市総合計画「能(よ)き美(し)きまちづくり」のさまざまな計画を実現するためには、予算の縮小や抑制ばかりではなく、今後も新たな財源の確保が求められる。

質 財源の安定確保に向けて、市長はどのような構想を立てているのか。

答 井出 敏朗 市長

今後の人口減少と高齢化の進行により財源確保は一層厳しくなる状況にあり、社会保障費の増加、公共施設の老朽化対策といった大きな課題にも直面している。自主財源の確保、中でも市税収入の安定した確保が重要となる。

- 新たな雇用の場の創出や地域経済の活性化、また移住・定住をも促進する企業誘致の推進
- 市中小企業・小規模事業者振興基本条例に基づき、中小企業・小規模事業者の活力を推進
- 魅力発信による移住・定住の推進を図り、人や企業から選ばれるまちが安定財源につながる

第3次行財政改革大綱の基本目標である「未来へつなぐ行政基盤の確立」に、行財政改革を推進し、健全で安定した財政運営に努めていく



●寺井あんしん相談センターの事業内容を問う

本年度の新規事業として取り組んでいる地域包括的支援体制構築事業は、子供から高齢者、障がいのある方などを含めたいろいろな方々の相談を丸ごと受けとめ、包括的、継続的な支援を行う事業です。

本年度、まず寺井地区をモデルとして取り組み、10月に寺井あんしん相談センターという名称でスタートしました。利用者の対象は、現在モデル地区となっている寺井地区の方だけとなっていますが、地域福祉向上のすばらしい取り組みであり、今後の展開やその概要をお聞きしたいと思います。

質 寺井あんしん相談センターの事業内容と、高齢者支援センターとの異なる点は

答 勝山 與四久 健康福祉部長

これまでの高齢者支援センターと異なる点は3点。

- 高齢の方だけでなく、障がいのある方、生活困窮の方の、ワンストップでの相談窓口
- 問題が多様化、複雑化しているため、関係者のネットワークの中に司法、教育、就労、家計支援などの関係者が加わり、事例検討会や地域ケア会議の機能強化が図られた。
- ケアマネジャーのほかに障害の相談支援専門員や生活困窮者自立支援員との連携を行う。

質 根上地区・辰口地区には、いつ、どのような運営形態で展開するのか

答 勝山 與四久 健康福祉部長

副市長をトップとした横系プロジェクトチームを結成し、「我が事・丸ごと」の地域づくり推進事業を進めており、「健康づくり・予防」「地域医療・介護」「助け合い・支え合い」の3つの部門で活発に活動している方々で地域包括支援体制推進協議体を立ち上げた。今後、この市民の方々の思いや活動を支援する体制を、自助、互助、共助、公助の連携で一步一步積み上げ、地域共生社会を目指していきたいと考えている。

あんしん相談センターで受けた相談から見えてきた地域の生活課題を地域福祉委員会につなぎ、多くの関係機関との連携が必要な場合は、あんしん相談センターの職員が障害の相談支援専門員や生活困窮自立支援員など多くの関係機関と情報を共有し連携の強化を図り、基盤体制を整えた上であんしん相談センターを根上地区、辰口地区に展開していく。



●市民モニター制度の導入の検討を

これまでも能美市では市民満足度調査や各種審議会の開催、パブリックコメントなどで市民の声を多く拾っているが、さらに市民の生きた声を聞く機会に、インターネットを活用した市民モニター制度を導入してはどうか。市政や市民生活に係る課題などについて答えていただく市民モニターをから素早い調査を行い、市民の声を市政に反映させていくことができると考えます。また、若い方々の市政への関心の向上や市民参加を推進し、より広い民意を市政に反映させることもできると考えます。

質 市政への市民参加を推進し幅広く市民からの声を拾い上げ、市政に反映させるため市民モニター制度の導入を

答 西村 泰知 企画振興部長

緊急性のある課題に適宜対応できることや時間や場所にとらわれず効率的に調査が行えることデータ集計も容易である一方で、無作為抽出のモニターではないことやインターネット環境が必要になるなど、やや限定的な側面も指摘され、都市部での取り組みが多い。市民モニター制度が有効な手だてとなれば今後の導入も検討していきたい。

市民ニーズの的確な把握とそれらを施策に反映していく仕組みづくりは、これからのまちづくりにとって大変重要なテーマであり、地道ではあるが

市民と顔を合わせ・心を通わせながら対話を続けていくことをモットーに「暮らしやすさを日本一 実感できる まち」の実現に向け施策を展開する。



●新公共交通体系構築のプロジェクトチーム編成を図れ

市は何度ものみバスのルート変更やダイヤ改正に取り組み、改善に努めているが、大きな解決策となっていないのが現状です。ただ、市民の方々には上手にのみバスを活用し、生活の一部として利用されている方も少なくはありません。これらの課題を解決していくため、**能美市の公共交通のあり方を考える時期に来ているのではないかと**

議会でも公共交通を考えるために、3年前に交通対策特別委員会を立ち上げ、2年間にわたり先進事例を学んで、能美市にも取り入れることができないかと研究、提言を行いました。当時、交通対策特別委員長に私が任命され、多くの可能性を探ってきましたが、国の制度上のルールが厳しく、断念せざるを得なかった記憶があります。現在、国の規制も段階的に緩和され市内の中でもNPO団体が買い物送迎を行っているところもあります。意欲ある町会では、町会運営で自分の町会でも乗り合い送迎をできないかと考えていると聞きます。

この時代の変化に対応するためにも、市民団体や町会の協力でのみバスに代わる、のみバスに加えての新しい公共交通体系で何かできることがないのかを考え、探る事が必要と考える。

質 町会、市民団体、議会、行政が話し合い、企画、提案できるように新公共交通体系の構築プロジェクトチームをつくることできないか

答 井出 敏朗 市長

地域公共交通の課題解決に向け、コミュニティバスとしてのみバスの活用について検討し、地域の皆様の声、民間事業者のご意見、福祉有償運送に取り組んでいる団体の実態、また今年度より実施している能美市地域包括支援体制の推進の中でも市民の移動の足の確保の視点で話し合いを行いたい。

次年度は、のみバスを含めた地域公共交通について、公共交通会議の委員だけではなく、町会・町内会や各種団体等からも委員を選出し、コミュニティバスの運行形態やコミュニティバスだけにとられない**新しい公共交通のあり方について検討する仮称「新交通システム検討委員会」の設置を考えている。**

今後も客観的な数字や専門的知見から、市民の声を大切に、地域公共交通を見直していきたい。

ご意見・ご相談等がございましたら下記まで☆

連絡先記載のないご意見は返信ができません、ご返答希望の方は連絡先をお忘れないように願います。

能美市議会議員 田中 策次郎

〒923-1124 石川県能美市三道山町字 16-2
TEL 0761-58-5037 FAX 0761-58-5209
Mail 3926@e-mail.jp http:// http://3926jp.net



日頃の活動もご覧ください